南那珂の普及活動
（普及活動月報）

令和８年９月
南那珂農林振興局
（南那珂農業改良普及センター）

Ⅰ　管内農業・農村の主な動き

１）南那珂地域みやざき地頭鶏研修会の開催

18 日に、普及センターにおいて、南那珂地域みやざき地頭鶏研修会を開催しました。出席者は農業者 10 名、関係機関 10 名の計 20 名でした。

当日は、畜産試験場養鶏科と宮崎家畜衛生保健所から講師を招き、飼養管理や衛生管理のポイントについて研修を行いました。また、普及センターからは、良質堆肥生産のポイントを説明しました。

研修会後は茶話会を実施し、自農場での取組や日頃抱える課題等について、関係機関を含め意見交換をしました。

茶話会では、生産コストの上昇や販路拡大の難しさなどがありつつも、今後もおいしいみやざき地頭鶏を生産したいなどの発言がありました。



熱心に研修を受講する出席者

２）第 13 回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会の開催

26 日に、都城地域家畜市場において第 13 回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会が開催されました。

当地域からは、第１～４区合わせて８頭の出品があり、第１区繁殖雌牛群で優等賞４席、第２区高等登録群で優等賞３席、第３区若雌の１で優等賞６席を受賞しました。



第２区高等登録群で優等賞３席を受賞した、井手達也氏出品の「はつみ２」号（左）と「はつみ２１」号（右）

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

１　地域プラン基づく普及活動

No.１　スマート農業を実装する多様な水田経営モデルの育成

１）乾田直播栽培研修会の開催

14 日に、県内の大規模水田経営体や関係機関約 150 名が参加し、乾田直播栽培研修会が総合農試で開催されました。

まず、農試が実施している試験ほ場での現地検討が行われた後、室内検討会において、県内の実証事例、県外の事例報告、基調講演が行われました。

室内検討会の中で、県内の実証事例として、普及センターから、南那珂地域の早期水稲における現地適応性の実証ほの概要について報告しました。

管内農業者から参加もみられ、関心の高さが伺われました。



熱心に研修を受講する出席者

No.２ 技術革新により高収益生産に挑む儲かる野菜産地の実現

１）ピーマン育苗高温対策展示ほの設置

10 日に、今年度促成ピーマンで計画している土壌保水剤の育苗試験の設置を行いました。

果菜類では収量向上の大前提として、苗づくりが非常に重要となりますが、促成栽培では猛暑の中の育苗となるため、かん水等の管理が難しい状況があります。

今回は、育苗土に保水剤を添加することで、急な晴天などの状況変化があっても苗のしおれなどを軽減することができないか等について、ピーマン生育への影響を定植後まで継続調査します。

今後も健苗生産の支援を引き続き実施していきます。



苗の生育調査を実施

２）サツマイモ基腐病対策試験ほの調査

18、24 日に、管内で令和８年度に取り組んでいる品種比較試験などの各種試験ほの発病調査や収量調査を実施しました。

今年度の試験の収量調査は 10 月まで実施する予定としており、まとまり次第、冬の座談会などで管内の生産者へ共有していきます。



収量調査を行う職員

３）サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

24 日に、関係機関（串間市、JA、振興局、普及センター）で５回目のかんしょほ場の定点調査（ほ場数 27 箇所）を行いました。

今回の調査では、基腐病は７ほ場で数株程度の微発生、１ほ場で５％程度の小発生が確認されました。

９月は降雨が多かったことから、被害が拡大したと考えられます。発生が拡大傾向にあるため、10 月以降も注意が必要です。

本調査は、10 月まで実施する予定であり、引き続き関係機関と協力して、生産者に対し適期の病害対策及び早期収穫の徹底を推進します。



ほ場の確認をする職員

４）串間市におけるブロッコリー栽培実証試験

１日に、JA みやざき串間市大束地区本部育苗センターにて、ブロッコリーの播種作業を実施しました。

試験は、新規品目導入に向け串間市主導のもと実施します。今年度は、「おはよう」、「サマードーム」の２品種を用いて、かんしょの後作として 20a 程度実証を行う予定です。

発芽直後の高温や日照不足により、徒長気味の生育となっていますが、10 月中旬頃の定植を目指し、苗を確保できるよう支援を実施していきます。



播種作業を行う関係者

No.４ 県内一のかんきつ、スイートピー産地を未来につなげる仕組みづくり

１）新・農業人フェアで南那珂での新規就農のＰＲ

23 日に、東京国際フォーラムで開催された国内最大級の就農イベント「新・農業人フェア」に参加し、南那珂地域での就農 PR を行いました。本フェアは、日本最大級の就農相談イベントとして東京・大阪等の大都市圏で定期的に開催されているものです。当日は全国から約 250 団体が出展し、来場者数は全体で約 1,500 人にのぼりました。

宮崎県ブースには８名が来訪され、南那珂地域の主要産物であるスイートピーや柑橘類などの魅力及び就農に向けた手厚い支援策について紹介しました。

次回、11 月 15 日に東京で開催される同フェアには、日南市からの出展が予定されています。今後も引き続き、市や JA 等の関係機関と連携し、就農希望者の着実な誘致活動に取り組んでいきます。



ブースで情報収集する来場者

２　地域課題一覧に関する普及活動

１）青年農業者経営能力向上研修会の開催

３日に、串間市総合保健福祉センター研修室にて、SAP 会員を主な対象とした経営能力向上研修会を開催し、SAP 会員 11 名、青年農業者３名、就農希望者１名、関係機関など計 29 名が参加しました。研修会では、農業経営コンサルタントの高津佐和宏氏を講師に招き、「農業情勢が大きく変化する中での稼ぐ農業」と題して、経営を考える上で重要なことや経営者に求められること等を分かりやすく解説していただきました。参加者にとって、研修会後の意見交換会も含め、今後の経営発展に向け大いに刺激になった研修になりました。

今後とも、青年農業者の経営能力の向上に向けた支援を継続していきます。



講演を熱心に聴く青年達

２）スイートピー高温対策実証ほを設置

24 日に、普及センターと JA みやざきはまゆう地区本部並びに JA 本店の職員で、管内に設置しているスイートピーの実証ほの生育調査を実施しました。

本年は３課題の実証ほに取り組んでいますが、全てのほ場において摘心が完了しており、生育も順調です。一部のほ場で大雨による浸水が確認されましたが、現段階で大きな影響はない見込みです。

今後も定期的に実証ほの生育調査を実施し、地域の課題解決を行い、スイートピー生産者の技術向上に繋げたいと思います。



温度計・照度計等を設置

３）きんかん輸出プロジェクト県外視察の開催

24 日に、輸出に取り組む管内のきんかん生産で鹿児島県へ先進地の視察をしました。

実際の生産現場を視察しつつ、輸出に向けた栽培方法や近年の高温対策、これまでの販促について意見交換を行いました。

今回の視察で学んだ内容をもとに、今後も関係機関と連携し、きんかん輸出の安定出荷に向けた支援をしていきます。



先進地ほ場にて熱心に
意見交換する生産者

３　その他

１）集中豪雨に対する事後指導及び巡回を実施

18 日に発生した集中豪雨により、管内の多数の施設園芸ハウスで浸水被害が発生しました。

普及センターでは JA・市と連携した被害状況の把握を行うとともに、被害対応として病害確認や浸水後の対策指導を行いました。

今後も関係機関と連携し、被害を受けた園芸品目の回復を支援していきます。



浸水被害のあったハウス

２）ＪＡみやざきはまゆう地区本部家の光大会が開催

18 日に、JA みやざきはまゆう地区本部家の光大会が開催され、女性部員を中心に約 150 名が参加する盛大な会となりました。

普及センターからは所長が出席し、女性部員の皆様が経営・家庭・地域の主役として今後ますます活躍されることへの期待を伝えるとともに、各種研修等の情報提供を行いました。

また、会場では多数の作品展が出品され、その審査および講評を担当しました。講評を通じて、地域特産品を活用する意義や農産物加工における技術的なポイントについて助言を行い、部員の皆様の活動意欲と技術の向上を図りました。



「元気ですか～」の会長あいさつ



作品審査の状況

３）オクラの品種比較に係る生育調査を実施

17 日及び 30 日に、串間市本城のほ場において、JA 営農指導員とオクラの品種比較試験の生育調査を実施しました。品種は、慣行品種「ジュピター」、新品種「キャスバル」及び「MS-1380」を試験しています。９月に入り全体的に生育はやや鈍化していますが、今後は品種ごとの時期別収量等の差異を明らかにしていく予定です。

得られた結果については、JA 専門部総会で共有し、新品種導入の可能性について関係者間で協議を進めていきます。

４）侵入調査事業に基づく侵入警戒有害動植物調査を実施

農産物に重大な被害を与える恐れのある重要病害虫の侵入調査として、ミバエ類とアリモドキゾウムシを対象に、トラップを用いた調査を実施しています。

14 日と 29 日に、アリモドキゾウムシのトラップ（管内 12 箇所）による誘殺数調査を行った結果、いずれも誘殺は確認されませんでした。

また、１日と 17 日に、ミバエ類（管内８箇所）のトラップ調査を実施し、いずれも誘殺は確認されませんでした。

今後も、南那珂地域への侵入・まん延を防止するため、定期的な調査を実施していきます。

